

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備
産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実

芦屋大学

平成25年度

実施報告書



ASHIYA
UNIVERSITY

■ 本学の現状と課題

本学は創立以来、オーナー経営者の二世育成に主力を置いてきた。ほとんどの学生は就職する必要がなく、就職支援室などを全くもたないで来た。平成に入って、キャリア支援センターを作ったものの、相談に来る学生は極めて少ないのが実態であった。近年、就職支援の必要性が高まり、相談件数も増えてきたものの、これをサポートでできる職員は限られており、教員も一部の者が支援をしていたに過ぎず、意識も高いとは言えなかった。

一方、学生たちについては、社会常識、マナー、コミュニケーション力などが低下してきていることは否めない。最も顕著なのは、思考力の弱さである。「教わっていない」ことが「答えられない」正当な理由になり、できない理由が社会や親や先生の所為にする状況が著しい。コミュニケーション力、行動力の低下もさることながら、安易に「正解」を求めすぎる。社会では「正解がない課題」が多いことを教え、本質論と方法論の違い、さらには現実的な改善を重ねながら徐々に問題を解決する方法論まで教えていく必要がある。

こういう認識のもとに、実社会で働いた経験を持つ専任教員と、実務家である外部講師が議論を重ねて骨組みを作り、これをシラバスレベルに組立て、授業方法のポイントを加味して授業計画を作成し、さらにこれを学部全体に広げていくことが、これからの重要な課題になる。

一方、業界、さらには企業の規模、国際化の程度などにより、企業ニーズには大きな差があると感じている。企業によっては社内教育の余裕がなく、即戦力を求める所さえある。社会は現在極めて流動的であると考え。従って本補助金事業の期間終了後も社会の動向に合わせて教育内容や方法論を柔軟に変えてゆき、社会の変化に対応できるシステムを作らなければならないと考えている。

平成21年4月から社会的・職業的自立を目指す教育を行うため大阪キャンパスを開設した。開設時に大阪キャンパスでは経営教育学部内のコースとして航空ビジネスや起業家、事業継承など4つのコースを設けた。1年生は従来通り一般教養を重点に六麓荘キャンパスにおいて学ぶが、週に1日大阪キャンパスで社会的、職業的な自立を目指し、職業概論、キャリアデザイン、ビジネスの思考法などを学ぶ。2年生では将来の職業目標を決めさせ、専門科目の選択方向を明確にする。大阪キャンパスでは、経営者、弁護士、公認会計士、中小企業診断士など実務経験を持った人たちが主に教育に当たっている。

このキャンパスでは、次のようなことに重点を置いている。

- ① 学生の発表能力、コミュニケーション力を伸ばす
- ② 知識だけでなく、問題解決力、思考力を養う
- ③ 気の合わない人ともうまく協調して仕事をする体験をする
- ④ 服装、身なり、ルールの順守、挨拶などを社会人として身につける
- ⑤ 社会常識、マナーを身につける

平成22年までは、大阪キャンパスのみの努力段階であったが、23年度からは六麓荘キャンパスを含めた全学的取り組みに拡大した。各教科を観念的に教えるだけでなく、その学問が実社会においてどのように活用されているか、どのような課題を抱えているかといった、実際の社会との関わりにふれることを求めている。

■ 本学の取り組み [仕事力の育成]

仕事力とは？

仕事力は、**[基礎能力]****[共通能力]****[専門能力]**の3つに大別できる。

[基礎能力]… 一般教養や読み書きそろばんといった基礎学力

[共通能力]… 「対人能力」「対情報能力」「対自己能力」から成り立つ能力

[専門能力]… 専門知識や技能、各企業固有のスキルなどのこと

特に「共通能力」はすべての職種の社会人にとって重要な能力であり、必要不可欠な能力と考える。

共通能力とは、**[情報活用力]**である。

情報活用力を身につけることで、既存の仕事のフレームワークをより使いこなすことができ、経験の少ない若年人材でも能力をフルに発揮できるようになる。

また、枠組みがあることで業務の一般化・効率化ができ、モチベーションアップにつながる。

同時に、自分や相手の伝えたい「情報」を的確に判断できるようになることでコミュニケーション能力の向上につながり、他者と協力して業務ができるようになる。

情報活用力の育成をすることで、個人の能力を、より実務に生かせるようになり、仕事力の向上につながると思う。



■ 平成24年度 [仕事力の育成に関する講義] 開講事例 [仕事力育成講座] (15コマ)

1	基礎編	■ 【就職力】と情報活用力の関係
2		■ 【就職力】と情報活用力の関係
3		■ 【仕事の実践力】と情報活用力の関係
4		■ 「情報活用力診断テスト」及び「考える 伝える 分かち合う」情報活用力の理解
5		■ 論理力トレーニング・数理力トレーニング・情報検索
6	応用編	■ データベースへの理解促進・数値分析・ビジュアル表現
7		■ 自己体験からのキャリアビジョンへの関連付け
8		■ キャリアビジョンの言語化・チームビルディング研修
9		■ 他者への発表におけるフィードバックとコミュニケーションの体験
10		■ プレゼンテーション研修・コミュニケーション研修
11		■ 自己PRの考え方、必要性・客観的分析ワーク
12		■ 「情報活用力診断テスト」及び企業への自己PR実習の演習・グループ分け
13	実践編	■ プレゼンテーション実習
14		■ プレゼンテーション実習2
15		■ プレゼンテーション実践



■ 平成25年度 [仕事力の育成に関する講義] 開講事例

[情報力基礎講座][企業入門講座]とねらい

「情報力基礎講座」は学生たちに意図や目的に合わせた情報収集、整理、編集、新情報発信に至る基礎的な力を付けさせようとするものであり、「企業入門講座」は、会社の組織や仕事のやり方、さらには組織内での人間関係などを学ばせようとするものである。いずれも、従来のような知識注入型教育ではなく、ワーク形式を採用し、授業の中で企業関係者と交流を行うことにより、産業界のニーズに応える仕事力のある人材を育成することがねらいであった。

また、学生たちの切実な問題を対象にして、体験型の手法を取り入れた事もポイントである。

■ [情報力基礎講座] (15コマ)

1	情報力とは	情報力の基本である「情報収集」⇒「情報分析」⇒「仮説組立」⇒「情報伝達」⇒「情報の共有化」の流れを理解する。 ※グループ討議の留意事項の確認、他人評価シートの配布。
2	キャリア情報とは	「自分の過去のキャリア情報」⇒「自分のキャリアの整理と分析」⇒「今後のキャリアの仮説」から、キャリア情報の必要性を学ぶ。
3	社会情報から	身近な課題として、現在の仕事力に関する課題と問題点を討議し、これから取り組む課題について共通認識を深める。
4	自分情報の分析整理①	 様々なエクササイズを通じて、「性格」「能力・スキル」「価値観」「やりたいこと」「行動パターン」について現状の自分を分析整理する。
5	自分情報の分析整理②	
6	他人情報の整理	インタビューなどを体験して、間接情報と他人評価の重要性、評価の難しさなどを学ぶと同時に、他人からの情報を整理する。
7	ショッピングセンターから情報を得る	情報の分析力を高めるため、ショッピングセンターを見学し、そこから得られた情報をグループで分析する。また、視野を広げることの大切さを学び、自分の将来の仮説に役立てる。
8	面接風景から学ぶ	面接風景のビデオを鑑賞し、感じたことをグループで討議、映像から得られた情報をグループで分析する。
9	対人関係力①	「コミュニケーションとは」について考察し、コミュニケーションの基本的考え方を理解すると同時に、対人関係力を高める。
10	対人関係力②	社会ルールや対人関係マナーを学ぶ。具体的には、面接など就職活動に関連した内容に加え、名刺交換などの体験もする。
11	相手を知る	相手をポジティブ・ヒューマン・コントロール・アチーブメントの4つのタイプに分けて、相手に合った対応の仕方を学ぶ。
12	自己PR(予選)	全体で予選大会を開催。優秀者数名を全員で選出する。
13	自己PR(決勝)	予選を勝ち抜いた学生で決勝戦を行う。社会人審査員による評価を受けることにより、社会人の視点を理解する。
14	今後の大学生活に活かす	この講座で身についた力を全員で共有化すると同時に、今後の大学生活に活かすことを全員で誓う。
15	個人別成長度合いの把握	「自己成長レポートの記入」と個人別評価カウンセリングを行い、自己成長度合いを確認する。

■ [企業入門講座] (15コマ)

1	公企業、私企業、公私混合企業などの区分、業界や業種、職種などの区別などを学ぶ。
2	現代社会の問題点や課題、社会的ニーズから、自分たちでどんなことをして貢献するか話し合う。
3	資本金や役員編成、SWOT分析など、事業計画まで作成する。
4	事業を遂行するにあたって必要な人材像を話し合う。
5	人材確保の方法を検討する。
6	実際に求人票をつくってみて、求人票の意図を理解する。作成した求人票は他のグループに提示し人材募集する。
7	身近な課題として、現在の就活に関する課題と問題点を討議し、これから取り組む課題について共通認識を深める。
8	面接風景のビデオを鑑賞し、感じたことをグループで討議、映像から得られた就活情報をグループで整理する。
9	他のグループの立ち上げたベンチャー企業に応募するエントリーシートを作成。
10	面接風景のビデオを参考にしながら、グループごとに面接の予行演習を行う。
11	作成した求人票とエントリーシートで、実際に面接を体験してみる(グループ×グループ)。
12	自分たちで課題整理を行った後、社会人に評価してもらう。
13	評価の難しさと他人からの評価の大切さを知る。
14	この講座で身についた力を全員で共有化すると同時に、今後の大学生活に活かすことを全員で誓う。
15	「自己成長レポートの記入」と個人別評価カウンセリングを行い、自己成長度合いを確認する。



■ 平成25年度の取り組みに関する総括



初年度である平成24年度には「仕事力育成講座」を開講したが、2年目にあたる本年度は仕事力の中核的内容である「情報力基礎講座」及び「企業入門講座」の二つを大阪キャンパスで開講した、この二講座とも、他大学の学生も受け入れることとしたが、十分に趣旨が浸透せず、各講座とも一名ずつの参加にとどまった。

しかし、わずかとはいえ異なる大学の風を感じ、かつ社会人の講師による実践的な授業を受けたことは、双方にとって得るところがあったと思われる。

「情報力基礎講座」は、意図、目的に合わせてどのように情報を集め、編集し、それを新しい情報に組み立てるかを学ぶものであったが、大学教育が知識として理解させようとすることに重点を置くのに対して、この講座では、グループとして議論して方針を立て、協力してそのプロセスを実行するだけでなく、異なる考え方をどのようにまとめるかを学ぶ「体験的」方法がとられた。



このことは、個人で行う作業と異なり、組織的に協力して行う作業体験の少ない受講生たちにとって新鮮な経験であり、かつ彼らを社会人に導く成長につながるものであった。また、チームは事前の性格テストに基づいて「気の合わない組み合わせの人たち」を意図的に同一チームにした。従来気の合う人たちとだけと付き合う学生生活と異なり、好むと好まざるにかかわらず協力関係を築かねばならない社会生活では、これは非常に有効かつ大切な試みであった。



「企業入門講座」は、取締役と執行役員、社長、専務、常務などの旧来からの呼称とCEO、COOなどの新たな役割、さらには典型的なラインスタッフ組織や、マトリックス組織、プロジェクトチームなどの指示・命令・調整などのありかたなどを、知識として学ぶだけでなく、チームごとにバーチャルな会社を作り、その中で社長の役割、部長の役割を体験し、会社の方針や人材募集の方針を決定するなどの作業を体験した。



さらにそれらを発表することにより、他のチームの批判をし、自らの方針等を批判されることにより、これらの役割分担の意味、方針の重要な要素、外部に理解してもらうための工夫等々の「知識以上の体験的理解」が、わずかとはいえ得られたと思われる。

従来大学の授業は知識と理論の習得が中心であった。しかし社会に出てよい働きが出来るようにするには、「自分で考え」、「それを他の人に理解してもらい」「異なる意見を理解し」「どのように調整し」「どのように決定してもらう、または決定するのか」を体験的に理解しその力をつけることが欠かせない。その意味で大学の授業内容及び方法の改革に一つの事例を示すことが出来たと思われる。



また、これらの受講をした学生たちは「成長ノート」を自ら記録させることにより、自分自身が成長したことが確認できるようになった。さらに指導教員がそのノートに基づきコメントを記すことにより、どのようなことを努力すべきかが学生たちにわかるような仕組みができた。このことは、大阪キャンパス中心の取組から、最終年に大学全体に取組に発展させるときに、大きな参考になるとと思われる。

■ 学生の声

【情報力基礎講座】

- いろいろな先生方に授業をして頂き、様々な業種の話や情報を聞くことが出来ました。
- 日常生活では学べない事が社会人の方から学べ、自分の力を上げることが出来たと思います。これからも色々なことを吸収していきたいです。
- 理解しやすい内容で、毎週少しづつ身につけて良かったと感じています。
- この講座で多くの社会人の方と話すことができ、貴重な体験ができました。刺激を受けた部分も多く、自分の知らない事を学べたことが財産です。今後の学生生活でこの体験や知識が活かせると思います。

【企業入門講座】

- この講座を通じてグループで議論することの大切さを学びました。これからの大学生活に活かせる、いい経験が出来ました。
- 自分で会社をバーチャルで作りました。そこで会社を運営する難しさや厳しさを知ることが出来て良かったと思います。
- 私はこの授業でアドバイザーという役職になりました。この仕事は社長や他の役職の意見を修正しまとめる役目です。今日の授業では求人票を作ったのですが、会社に入らないとわからない部分が理解できた気がします。私はこの授業を受けて自信が付き、自分の気づかないところに気づいた点良かったと思います。



■ 芦屋大学のキャリア支援スケジュール



📄 ホームページでも情報を公開しています。

URL http://www.ashiya-u.ac.jp/monkasho_jigyo/

アクセス手順

- 1 芦屋大学
- 2 GPなどの取組みに関するページ
- 3 「平成24年度産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」『産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実』からもご覧いただけます。



芦屋大学

<http://www.ashiya-u.ac.jp/>

[六麓荘キャンパス]

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町13番22号 TEL 0797-23-0661

臨床教育学部 | 教育学科 | 児童教育学科 |

経営教育学部 | 経営教育学科 |

[大阪キャンパス]

〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町3番3号 OSビル12階・16階 TEL 06-6364-3100

経営教育学部 | 経営教育学科 |

